仕事術 **自走する学級を育てる月末の仕事術▶ 217**

アンケートによる月に１度の定期的なふり返りは、学級全体を整え、自走する学級づくりにつながります。

「月末アンケート」で子どもの本音を知る

まずおすすめしたいのが「月末学級アンケート」です。内容はシンプルでかまいません。

・学級が楽しいと感じているか
・学級で安心できるか
・よく遊ぶ友達は誰か
・最近困っていることはないか
・この学級の良いところは？

こうした質問に定期的に答えることで、子どもたちは「今の自分の気持ち」や「学級の中での自分の位置」に気づくようになります。教師としても、いじめや孤立の芽、小さな不安のサインを早期にキャッチできます。

子ども・学級・保護者の３方向のふり返りをルーティンに

自分の成長に気づき、自信をもって語れるようになることは、自走力の土台になります。

・学習面や生活面で頑張ったこと
・係活動やリーダーとしての取り組み
・自分の学級での役割や成長

こうした問いに毎月答えることで、子どもたちは「自分がどう変わったか」「何ができるようになったか」に気づいていきます。また、通知表所見の記録にもなります。

「月末学級会議」で学級目標を再確認

学級が前に進むためには、目標が必要です。でも、目標は立てっぱなしにしておくと、いつの間にか忘れられてしまいがち…。そこで、「月末の学級会議」で、学級目標について毎月ふり返る時間を取りましょう。成果と課題を出し合い、学級の現状を全員で共通理解します。

「学級通信アンケート」で家庭ともつながる

保護者の思いや気づきも、学級経営には重要なヒントです。月末の学級通信にアンケートのQRコードを記載し、次のような簡単なアンケートを取ってみましょう。

・担任に相談したいことはありませんか？
・学級で知りたいこと、伝えたいことはありますか？

意外と相談件数は少ないかもしれません。でも、担任が「声を聞こうとしている」という姿勢そのものが、保護者にとって安心につながります。

授業づくり **指導者の技術ではなく、“学習者”を育てる授業へ▶ 294**

教師の発問が鋭く、板書が整い、説明がわかりやすい授業。それは確かに魅力的で、学級も静かに集中しているように見えるかもしれません。しかし、そうした授業が「教師の技術」だけに依存している場合、子どもたちの学びはどうしても受け身にとどまりがちです。「教えてもらうのを待つ姿勢」が染みつくと、その学びは“その場限り”のものになってしまう恐れがあります。もちろん、発問や板書の技術が不要なわけではありません。それらは授業を組み立てる大切な基盤です。ただ、めざすべきは「教師がすごい授業」ではなく、「子どもが自ら学ぶ授業」です。

思考の“視点”を提示する

たとえば国語の授業で「感想を言ってみましょう」と投げかけても、反応が薄いことがあります。子どもたちに感想がないのではなく、「どこを見ればいいか」がわからないだけなのです。そこで教師が提供するのは、“視点”です。「主人公の気持ちはどう変わった？」「一番印象に残った場面はどこ？それはなぜ？」といった問いを投げることで、思考のヒントになります。思考の入り口を示すことで、子どもたちの内側にある言葉や感情が動き出すのです。

言葉の“型”や“材料”を渡す

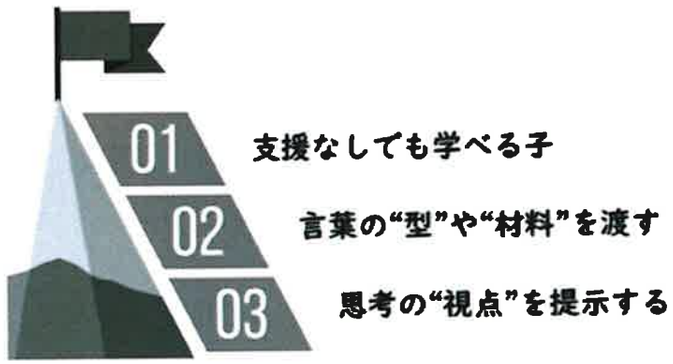
視点が見えても、それをうまく言葉にできないこともあります。そんなときには、「以前の学級で出た感想を紹介します」「気持ちを表す言葉リストから選んでみよう」など、表現の型や材料を渡す支援が効果的です。

こうした言葉の“足場”を使いながら、自分の思いを組み立てる練習を積み重ねていくうちに、少しずつ「考えをもつ力」「伝える力」が育っていきます。

めざすのは“支援なしでも学べる子”

最終的にめざすのは、「支援がなくても自分で学びを深めていける姿」です。ただし、最初から自立した学習者になれる子はいません。だからこそ、視点を提示し、言葉を支援しながら、少しずつ自分の力で考えられるように導いていくことが大切なのです。

この過程を経て育つのが、“自走できる学習者”。教師に頼らず、仲間との対話の中で問いを深め、自ら学びの方向を定めていくことができる子どもたちです。これは、学年や教科を超えて生きる力であり、将来にもつながる本物の“学力”です。



仕事術　来年度に向けた助走の仕事術▶119

年度末に向けて慌ただしさが増す１月。しかし、この時期だからこそ、来年度を見据えた“助走”を始めることが大切です。４月になってから慌てて準備を始めると、日々の業務に追われて手が回らず、満足なスタートが切れません。この時期から来年度に向けての仕事を動かし始めます。

学級開きと保護者会資料を先取り作成

４月の学級開きは、年間の学級経営の土台をつくる大切な場面です。にもかかわらず、年度始めは異動や準備などに追われ、なかなか時間が取れないのが現実です。そこで１月のうちに、来年度用の「学級開きスライド」や「４月の保護者会資料」を準備しておきましょう。

たとえば、学級開きでは「学級目標の決め方」「自己紹介カード」「係活動の説明」「教室ルール」などの構成をあらかじめ決めておけば、年度が変わってもすぐに編集・活用できます。保護者会用には、「年間行事予定」「学習の見通し」「家庭へのお願い」「ICT の活用について」などを盛り込むと、次年度も安心です。

「４月から」を変える、学級経営のインプット

１月は、新しいことを始めるにも、学びを深めるにも最適な時期です。時間のあるうちに、学級経営に関する本を１冊読むことをおすすめします。とくに「４月の立ち上げ」「子どもの行動原理」「学級ルールのつくり方」などに関する本は、新年度に向けた実践知として役立ちます。

さらに、読んだ内容を踏まえて、自分の学級経営方針や、やってみたい取り組みをまとめておくとよいでしょう。たとえば、「今年度は自己肯定感を高める学級づくりをめざす」「対話を軸にした学びを推進する」など、テーマを絞って計画を立てておくと、４月以降の実践がブレません。

来年度の「研究テーマ」を先に考えておく

研究授業や校内研修の準備は、年度初めから動き出すことが多く、テーマが未定だと計画が後手に回りがちです。１月のうちに、自分なりの研究テーマを決めておくことで、スムーズに動き出せます。

テーマは小さなものでかまいません。「板書の工夫」「単元を貫く問い」「子どもが自走する振り返り指導」など、自分が今年高めたい力に焦点を当てましょう。そのテーマを１年かけて追究することで、授業力・指導力が確実に積み上がっていきます。

ChatGPT 4o ⌄

①【国語科】に関する校内研修テーマ案

1. 「言葉でつなぐ・深める対話」
   ～多様な考えをつなぐ国語の学び～
   → 対話的な学びに重点を置き、話す・聞く・書く活動の有機的な連動を探る研修テーマです。
2. 「深い理解を生む読解指導の工夫」
   ～問いをもち、考えをつくる国語の授業づくり～
   → 主体的に問いをもち、読み深める力を育成するための読解授業の改善に焦点を当てます。
3. 「思考の可視化を通して学び合う」
   ～書くこと・話すことで広がる国語の学び～
   → 個別最適な学び×協働的な学びを意識し、書くこと・話すことを通して考えを可視化・共有する授業づくり。